

会議録

件名	第5回 軽井沢未来構想会議
日時	平成25年11月11日(月) 13:30~15:45
場所	軽井沢大賀ホール・演奏者ラウンジ

事務局 (udc) :

それでは、委員の皆様がお揃いになりましたので、只今から第5回軽井沢未来構想会議を開催させていただきます。実質は、第6回となります。本日は安島先生がご用事によりご欠席、進士先生は今朝ほどご連絡があり、お風邪を召されたという事でご欠席でございます。

本日は議事次第に書いておりますように、パブリックコメントを頂いた3名の方からご意見をお伺いさせていただきますことになっています。お一人プレゼン15分、質疑15分の30分です。A様、B様のお話をお伺いし、休憩をとった後にC様からお話を頂きます。その後に若干ではございますが、3名の方の意見に対して委員の皆様の意見を頂く時間をとっています。その後に委員長から総括を頂く予定であり、15時45分の終了を予定しております。

お手元に何種類かの資料がございます。A4で右肩に取扱注意と記載していますが、本日お伺いする3名のパブリックコメントそのものを用意しています。原則、公開しない事になっておりますので、取扱いにはご注意ください。A3の資料が2種類ございますが、一つはパブリックコメントを頂いた26件を要素に分解してまとめた資料です。前回、前々回もお示ししておりますが、青文字が町民、赤文字が別荘民と分類しています。もう一つは、軽井沢町商工会中軽井沢支部と書かれておりますが、本日3番目にプレゼン頂くC様の資料となります。

それではこれ以降、中村委員長に進行をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

中村委員長:挨拶

皆様こんにちは、本日は宜しくお願い致します。本日は実質、第5回目となります。当初の予定では私の総括発表でしたが、レベルの高いパブリックコメントが集まりましたので、本日はその中から3名にお話を伺います。私の総括発表は来月に変更させて頂きました。パブリックコメントについては、皆さん目を通しておられると思いますが、町民、別荘民とほぼ半々です。とても水準が高いご意見が挙がっております。我々の参考になる意見も沢山出てくると思い、この回を開催させて頂きました。

お手元の通りで会議を進めさせて頂きます。それでは早速でございますが、最初のご発表者、A様のお話をお伺いしたいと思います。宜しく申し上げます。

今日はみぞれが降っています。天候が変わりやすい所が高原の特徴だと思います。

(A様 ご入場)

私、この委員会の委員長をやっております中村と申します。今日はわざわざお越しいただき誠に有難うございます。どうぞお掛け下さい。パブリックコメントを全部で26件集まり、町民と別荘の方が半々となりました。先程も話をしていたのですが、我々のプロジェクトの参考になるご意見をお寄せ頂きまして、丁寧に読ませて頂きました。全員から直接お話を伺う事は、時間的に難しいので、今日はお三方

からお話を伺いたいと思っています。最初に A さんから直接口頭にてお話を伺い、その後に質疑応答の時間を取りたいと思います。我々は既に資料を読ませて頂いております。15 分という短い時間ですが宜しくお願い致します。

パブリックコメント提出者による意見発表①：A 氏（別荘）

A でございます。それでは、前置きを省略させていただきますが、簡単な自己紹介からお話させていただきます。軽井沢に父が建てました別荘がありますので、私は 2 歳の時から軽井沢に訪れる機会がございました。戦争中は疎開もし、軽井沢の小学校に在籍しておりました。大学を出ましてからメーカーに勤め、アメリカに 2 回、通算 5 年参りました。アメリカのリゾート土地も何か所か訪れた事があります。



一般財団法人「軽井沢会」の評議員をやっております。外国人が宣教師をはじめた頃に出来た古くからある団体ですが、それを軽井沢の別荘の方が継承してまいりました。現在は〇〇さんが理事長でやっておられます。実は私の父も理事長を務めておりました。軽井沢の環境を守る事については、父の代から非常に興味を持っていました。その様な縁もございまして、仕事を十数年前 65 歳で辞めたのですが、それから軽井沢に来る機会が長くなりました。軽井沢について非常に興味を持っています。

藤巻町長になりまして、新たな観点から様々なご計画を実施しているという事ですので、何か多少なりともお役に立てる様なお話が出来ればと思い、パブリックコメントに応募させて頂きました。

私は二つの観点から 3 つの提言を示させて頂きました。二つの観点とは、「美しい村の軽井沢」「国際的な保健休養地」であり、軽井沢の軽井沢らしさになると思います。軽井沢町の長期振興計画でも「自然と文化が奏でる軽井沢」を基本理念としております。自然が我々に与えてくれる恩恵、ここで培われた文化も、軽井沢で生活する上では、非常に有難いものだと思っています。

提言は 3 つございます。第 1 点目は、少し突飛ですが「レンジャー隊」を創って欲しいという事です。王立公園やアメリカでは、自然を守るためのレンジャーが居ます。軽井沢町については「自然保護対策要綱」をはじめ軽井沢の規則、ルールが出来ております。また景観面では「屋外広告物条例」が景観三法の中でも非常に重要な位置づけされる訳ですが、京都では、「のぼり旗」の廃止を進めています。自然環境に合わない屋外広告物は辞めて欲しいと思っています。軽井沢町にも「軽井沢町に看板を出す決まり」というルールがございます。大きさ、色の基準が設けられており、電飾看板が規制されています。分かり易く書いたおつもりでしようが、実は非常に分かり難く、守られていない状況です。

軽井沢町は観光で成り立っている町でございます。大きく分けて、軽井沢町には軽井沢に住んでいる住民、別荘の住民、観光に来る人がございますが、軽井沢に住んでいる住民と別荘の住民は、看板を見てお店に入る訳ではありません。「のぼり旗」等の看板を出す理由は、一見で軽井沢を通過する人達に対する広告だと思っておりますが、大変迷惑に感じています。それに関わっている事業者が多少潤うのでしようが、軽井沢の景観を守る面から見ると、看板はマイナスであると思います。やはり、取り除いてもらいたいと思います。先程、町長さんから資料を頂きましたので拝見しましたが、のぼり旗については 3~4 年後には無くすという方向ですので大変結構だと思います。しかし、屋外広告物についてはあまり触れ

られておりません。店の看板についても大きさ、色の制限がありますが、守られておりません。これらを守らせる事が非常に必要だと思います。

最近、軽井沢駅前や追分の歴史的地区では電線の地中化が実施されていますが、通りを通る人達をターゲットにした業者が立て看板や商品等を設置しています。高品質型長期滞在地にはマイナスだと思います。通年営業していない人達は、限られた期間の中で儲ける必要がありますので、宣伝広告も露骨になるケースがあると思います。ですので、屋外広告物については取り締まらなければ駄目だと思っています。後程申し上げる「ウォーキングトレイル」の管理を含めて、軽井沢町全体の環境、風致を守る「レンジャー隊」を創り、良い景観が保てる様にして頂きたいと思っています。

軽井沢町には「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する要綱」があります。「自然保護対策要綱」に織り込まれてはいますが、「自然保護対策要綱」は、どちらかと言うとハードな部分に対する要綱になります。しかし、「軽井沢町の善良なる風俗維持に関する要綱」は、ソフトに対する要綱になります。例えば「騒音は出さないようにしましょう」「臭いは出さないようにしましょう」「深夜は騒がないようにしましょう」等になります。

この様なものも含めて、軽井沢町の善良なる風俗を維持し、自然を守るという面では是非「レンジャー隊」を設けて頂きたいと思っています。縦割り行政ですので建築許可は下しても、その後、お金を取り上げる立場になると法務局や財務局へ移行し、建築許可通りに完成したかどうかについてのフォローに対しては、現実的に出来ない状況になっていると思います。それは当然だと思います。その様な面も含めて、景観を守る、監視する町長直属のレンジャー隊を創り、現在、許可制の届け出のみになっていますが、違反を摘発する事が必要でないかと思っています。その中にはボランティアも含めても良いのではないかと思います。出来れば、私もボランティアで参加できればと思っています。現実に別荘地の中を通過する者の中には、食べたゴミを平然と捨てていく者もおります。私はそれを拾って歩いている状況です。また、夏の間は涼しいため、我々の家では冷房は必要ないのですが、木陰で冷房をつけるためにエンジンをかけたまま車を停車している者もいます。迷惑以外の何物でもないと感じております。この様な事に対しても取り締まって頂きたいと思っています。

第2点目は、10年前にも同じ様な事を実施されています。当時、「軽井沢会」の理事長のお伴し、役場に伺い、若干意見を申し上げた事がございますが、それとは違い、これは良く出来ていると思います。観光産業の中には「スポーツ」の位置づけがございます。これは風越地区のスポーツ設備充実、追分「木もれ陽の里」設置等、町として非常に良い事を実施しているのですが、町の人達のためではなく、都会の生活者にも自然の良さを味あわせて欲しいと思います。特に小さな子供達は、携帯電話やゲームに1日3時間程費やしている等、生活調査で明らかになっており、デジタルに毒されていると思います。既に実施している所があるのかもしれませんが、デジタルな物は一切使用せず、野山を駆け廻ったり、自転車に乗ったり、テニスやスケートをやったりと言ったスポーツを中心とした1週間を過ごす林間学校等が町のバックアップによって出来れば面白いのではないかと思います。町の施設も使用しますが、宿泊については企業に協力してもらい、保養所を活用すれば良いのではないかと思います。様々なアイデアはありますが、「林間学校」を是非実施して頂きたいと思っています。この調査の中でもあります様に、夏の7月から9月に57%の観光客が集中しています。軽井沢が良いのは、5月の連休明けから11月までだと思いますが、誠に勿体ない話で3ヶ月に集中している状況です。しかし、スポーツを通じた林間学校が実施できれば、そこに参加した子供達が軽井沢にとっての健全な将来の観光客になるのではないかと思います。その様は人達を育てる事も実施してはどうかと思います。それにも関連しますが、軽井沢

町にも「インターナショナルスクール」が出来ます。会話の全てが英語という事もこれからの時代、良いのではないかと思います。自然に親しみながら、教養も身につく様な林間学校になれば良いと思っています。

ご承知の通り、旧軽井沢にあるテニスコートは、現在軽井沢会が所有していますが、外国人宣教師や軽井沢に来られた外国人の方々がスポーツを楽しむために作った施設になります。綿々と受け継がれ、今年で100年になります。また、私の子供の頃には、早稲田のグラウンドがあり、野球の練習やボールゲームが盛んに行われ、楽しんだものでした。現在はその様な施設が無くなってしまい、少しさみしい別荘地になりました。一頃、特に南の方ですが、テニス民宿も流行しました。テニス人口が減少し、成り立たなくなったせいか見なくなりましたが、その様な施設も活用できれば、テニス人口を増加させる事も可能ではないかと思います。いずれにしても、住民や別荘の住民だけではなく、都会の人達、特に青少年を呼び込み、軽井沢の自然の中で生活してもらい、自然の良さを感じてもらう事が大事なのではないかと思っています。これは、既に星野にあります「ピッキオ」が実施しています。有料ですが、マウンテンバイクに乗る、野鳥を観察する等のツアーを実施しています。こちらが先駆者になりますが、同じ様な事でも実施すれば良いのではないかと思います。

第3点目は、ウォーキングトレイルを体系的に整備する事です。ウォーキング、ハイキング、トレッキングの詳細な区別は分かりませんが、重装備ではなく山道や平原を歩く事が出来ればと思っています。軽井沢では浅間山が見えるポイントが重要になります。私は写真が好きなのですが、浅間山が撮れる場所は限られています。しかも電線や看板が邪魔をして、なかなか良い写真は撮れません。絵を描く人も同じ様に感じていると思います。ですので、障害物フリーのウォーキング、トレッキングロードを軽井沢の外周に設置してはどうかという事が私の提案です。現在、断片的には設置されており、「軽井沢の歩き方」マップもございますので、ウォーキング等を行っている方もいます。駅を出て駅に帰ってくる1日のコースマップ等も充実しています。外周ロードを設置し、そこに道の駅の様な「村の駅」をポイントに創って、お茶を飲んだり、食事をしたり、買い物が出来る様になればと思っています。既に、碓氷峠の見晴し台の下には、神主さんの皆様が何軒かの民宿やお茶屋を行っていました。

軽井沢駅に近い「矢ヶ崎」を起点として、「碓氷峠」、三笠の奥の「小瀬」、碓氷峠から小瀬へ行く道は現在ありませんが、小瀬周辺は、町のレクリエーションエリアでもありますので、何とか設置できないものかと思っています。小瀬から星野へ抜ける「小瀬林道」は、湯川が走り、大変素晴らしい道です。私は大好きで、いつも歩いています。昨日も軽井沢に参りましたが、軽井沢駅で散策コースを訪ねてみる方がいました。「小瀬林道」は良いのですが、そこへ行くまで交通の便が悪いため、断念していました。小瀬の次は「千ヶ滝南」、「星野」、「追分」、「風越」等のポイントがあれば良いと思います。矢ヶ崎山はプリンスホテルの人工スキー場となっていますが、昔は登る事が出来ました。出来れば、そこまで含んだ軽井沢バイパスに平行する様な道を設置できれば良いと思っています。若い人でも団塊の世代の方でも楽しめる外周ウォーキングトレイルの設置が出来れば、新しい軽井沢の観光施設としてなり得るのではないかと思います。

中村委員長：

有難うございました。委員の皆様からご質疑等がございましたら、宜しく申し上げます。

ウォーキングトレイルの話は、他のパブリックコメントの中でも同じ様なご提案を頂いておりまして、大変関心を持っています。一つお尋ねしたいのですが、ウォーキングトレイルは一部サイクリング

ロードを含むと考えるのが自然だと思うのですが、別荘の方から見てサイクリングについてはどの様にお考えでしょうか？現在、国道沿いに立派なサイクリングロードが設置されていますが、あまり使用されていない印象を受けます。

A 氏：

サイクリングロードも断片的ですし、自動車と同じ道では良くないと思います。都会では止むを得ないかもしれませんが、軽井沢では自然の中の歩道と一緒にあったサイクリングロードが良いのではないかと思います。全体は難しいと思いますが、ウォーキングトレイルの一部がサイクリングロードとなっている方が良いのではないかと思います。

中村委員長：

有難うございました。他にご意見がございましたら、宜しくお願いします。

浅野委員：

軽井沢に来ておられる期間が長くなっている中で、日頃の足（交通手段）はどうされているのですか？

A 氏：

私は幸いに軽井沢駅から歩いて 13 分の所に別荘があります。父親に感謝しなければならないと思っています。軽井沢までは新幹線で来る事もありますが、新幹線は高いので、時間がある時には在来線と横川から JR バスを利用して来る事もあります。2700 円で来る事できます。「大人の休日倶楽部」に入っているので通常は新幹線が 3 割引ですが、軽井沢は片道が 200 キロ以内なので片道のみでは使用する事が出来ません。時間がございますので、時間を売るのではなく、買う気持ちでおります。当然、車で来る事もございます。

浅野委員：

軽井沢の中では、先程は歩いておられると申されていましたが、車も利用されるのですか？

A 氏：

なるべく使用しないようにしています。しかし、私の好きな場所が「千ヶ滝」なので、近くの駐車場までは車を使用します。駐車場周辺も非常に人も少なく歩き易い場所です。別荘の近くは歩きます。

浅野委員：

有難うございました。

森山委員：

冬はどのような生活をされているのでしょうか？

A 氏：

大変厳しいご質問なのですが、軽井沢は寒い地域ですので、住み続けていないと水が凍ってしまうため、水を落とす必要があります。私の別荘も先週、水を落としてしまいました。昨日はハーベストクラブに宿泊しました。冬ははっきり申しまして使用しておりません。11 月に閉めて、翌年の 3 月に開けております。

疎開中は住んでおりましたので、冬の厳しさは分かっておりますが、一度は住んでみたいと思っています。非常に良い所だと思っています。軽井沢の冬が好きな方も多いと思います。

森山委員：

分かりました。有難うございました。

中村委員長：

有難うございました。また色々とお尋ねする事もあるかもしれませんが、宜しく願い致します。

(A様 ご退場)

(B様 ご入場)

中村委員長：

本日は貴重なお時間を頂きまして、有難うございます。私、この委員会の委員長をやっております中村と申します。本日はパブリックコメントを頂いたお三方から代表という形でお越し頂きました。別荘の方から2名、町民の方から1名という形でございます。Bさんからも様々なお話を聞きたいと思いません。時間が限られておりますが、我々は既に資料を読ませて頂いております。短い時間ですが15分プレゼンテーション頂き、その後、質疑応答に15分時間を取りたいと思いません。短くて恐縮ですが、宜しく願い致します。

パブリックコメント提出者による意見発表②： B氏(別荘)

Bでございます。宜しく願い致します。軽井沢には30年少しお世話になっております。仕事としては建築に携わった後、30年程は都市計画を専門としておりましたので、職業的な目の方も少し混じった形になりますが、レポートを書かせて頂きました。

特に80年代後半から90年代後半にかけての観光事業バブル期に、テーマ性を持った大型観光施設づくりのプロジェクトマネージャーをやっておりました。その関係で、その後も幾つもの観光事業に参画させて頂きました。ここ10数年は、純粋な都市計画、地域計画の方にシフトしております。10年前から香港に会社を創り、中国大陸や台湾、東南アジアの都市計画に携わっております。日本から見るとやや後進的な考えですが、必ず観光事業を含んだ都市計画となっております。観光事業は即効性があり、投資の早い回収が可能です。決して悪い事ではなく、一定の活性化につなげる事ができますので、その様な提案をしてくれています。

今回のレポートでは、前半で「軽井沢に求められるアイデンティティ」について記載しました。アンケートを取ると、大抵は「自然が良いから」という回答になるのですが、保養地の場合は、自然が良いのは当たり前であり、共通する事だと思いません。そのため、「アイデンティティ」という意味とは違うと思いません。「軽井沢ならでは」という問題は、都市づくりをする上で、また、その町で生活する人達が何時でも立ち戻らなければならない事だと思いません。皆様には釈迦に説法だと思いませんので、詳しくは省略させて頂きます。

むしろ、レポート後半の「中長期的にどうあるべきか」についてが、私が一番申し上げさせて頂こうと思った事です。長期的には、当然、望ましいイメージを創り上げ、その実現を目指して事業展開していく事が重要であると思いません。まさに行政が実施している事そのものでありますため、それ以上の大

した考えがある訳ではありません。

中期的に行う事として「ノイズを取り除く」事は深刻な問題だと思っています。軽井沢の様にメジャーな観光地の場合、多くの観光客が訪れます。商業自体に活気を持たせる意味では大変良いのですが、それを目指して軽井沢に入る商売について問題があると感じています。ネガティブな事ばかり書いておりますが「ノイズを取り除く」の一つ目として、軽井沢の例を出すと差支えがございますので、私が住んでいる〇〇を例に出してお話させていただきます。東南アジア系のエスニック店やたい焼きを作って「〇〇たい焼き」として売っている店等、果たしてこれが〇〇なのか？と疑問を持つ商店が多くあります。訪れる方々は、我々住民が持つ常識を持っていませんので、それらを〇〇だと感じていると思います。その様な部分は危惧する所です。昨日今日の観光地では羨ましい話なのかもしれませんが、100年の歴史とアイデンティティを持った軽井沢では、むしろ、その様なノイズを取り除く事が必要であり、行政が実施しなくてはならない事だと思っています。フランチャイズチェーンや外部資本型の大型商業施設は町を攪拌します。日本では、行政が強力な条例を創る等、少し努力を始めている所もございますが、例えば、町に本社を置かない店舗は開いてはいけない等の強力な規制も必要ではないかと思えます。アメリカのウォールマートやスターバックスは、新しい土地への進出を巡って、多くの行政訴訟を抱えています。この様にアメリカでは行政が腰を据え、腹を括って取り組んでいます。日本でも戦って欲しいと思っています。以上が「商業」に対する問題でした。

もう一つは「観光」の問題がございます。観光も町の活性化に資するものがありますが、観光客を呼び寄せる側が大資本であったりすると良くないと思います。例えば、バスツーリズムの様に大ホテルと大型エージェン트가契約して団体客が押し寄せる観光形態は、流行が無くなると廃れる傾向があります。

アメリカの観光経済学者がタイで、マスツーリズムと若者がバックパックで訪れ民宿に宿泊する等のマイクロツーリズムについて地域経済に及ぼす影響を比較分析しています。実は我々が想像している逆の結果なっています。地域経済に資する方は、若者のバックパッカーの方の様です。つまり、マスツーリズムで観光客が押し寄せる状況は、町に90%もお金を落としておりません。この様な定量的な調査もあります。また、少し古いのですが、フランチャイズチェーン店と地元商店と比較した調査もございませぬ。物の仕入れや人件費の影響もございませぬが、フランチャイズチェーン店で落とした100円は70円以上外に持ち出されています。ところが地元商店で購入した100円は40円以下のみの持ち出しになります。例えば、主婦が100円の卵を購入する際に、大型スーパーでは20円、地元商店では25円で売っているとしますと、大型スーパーの方が得な様に感じますが、実は町の経済に循環しているのは地元商店の25円の方がはるかに大きいのです。25円払えば20円は町の中で循環しています。大型スーパーにて20円で購入したものは、15円は外に持ち出されています。経済的な損得から考えても、フランチャイズチェーン店や大型店は地域経済に貢献していない事が分かります。

観光で言えば、私論ですが、大型観光地やテーマパークを作ってきた私自身の反省を込めて、「観光一割論」を申し上げたいと思います。つまり観光に依拠し過ぎたまちづくり、まちは脆弱だと思えます。例えば、大型は駄目で小型では良いかというとその通りであり、小型の観光であれば修正しながら進める事ができますが、大型はその地域の地域行動を変えてしまう事もあります。かつてリゾートが華やかに持てはやされた時期の大型観光地は、大抵、農村や漁村につくられていました。3500人の従業員が必要な場合、ほとんどの方は農業や漁業を捨ててやってきます。しかし、観光地として成り立たなくなり職を失った時には、もう引き返す事は出来ませぬ。まずは農地がなく、技術の伝承もない、そして一度、観光施設で給料をもらう環境に馴染んでしまうと、再度農業で働く事ができません。この様に、流行遅

れとなった観光地の悲惨さは、日本各地にあると思います。観光は非常に良いものですが、同時にプロポーションを良く考えないと悲惨な街を残す事になります。例えば富士山麓のある街では、テニスブームに農地を潰してテニスコートを作りましたが、テニスブームが10年でなくなった時に、戻ってくるべき農地はありませんでした。

「観光一割論」の一割は定量的な事ではなく、過度に観光、観光を含めたイベント的なまちづくりをしない事です。「まちづくり」という言葉は、好ましい使い方もございますが、中にはイベント的な使い方をしている場合があります。例えば、あの町は良い焼酎をつくったから成功したので、うちも作ろう等と言ったまちづくりがありますが、人は1日に2本も3本も焼酎を飲むわけではありません。観光学でもある事ですが、観光を目玉とした大開発を行った時に、その施設に入り込む客数のマスは決まっています。例えば2000万のマスがあって、それを何年で取り崩すかという計算をする割り切った論です。この様な影響も観光が消費されていく姿だろうと思います。

中村委員長：

どうも有難うございました。それでは委員の皆様様からご質疑等を頂きたいと思えます。

花里委員：

こちらの別荘にお住まいの時は、どれくらいの期間お使いになりますか？

B氏：

長い間サラリーマンでしたので、ゴールデンウィーク、夏休み、お正月の大型連休の時に滞在していました。

花里委員：

軽井沢は1997年に新幹線が開通し、東京から日帰りができる場所になりましたが、昔は宣教師の方達が1ヶ月以上滞在する場所でした。その様な変遷がございますが、今後、どの様な滞在客が増加すれば良いと思えますか？

B氏：

町の方が考えている以上の提案は持ち合わせていないと思えますが、ただ、私自身は週末型の利用がもう少し長くなり2~3週間、今年は幸い1ヶ月間滞在する事が出来ました。現在、憧れているのは二地域居住です。鎌倉に家がある訳ですが、観光やリゾートシーズンだけの別荘という感覚の付き合いより、もう少し日常的な付き合いに変わりたいと思っています。

花里委員：

軽井沢では日帰りの観光客が多いと思えますが、どう切り分けていけば良いのか、この会議で議論している中でも難しい所だと思います。都市計画の観点から何かご意見がございますか？

B氏：

観光客が来る事は、経済的や町の活性化の面から見ても良い事だと思っています。ただ、とにかく観光客は非常に浮気な所があるという事です。軽井沢の様に歴史も大きな観光資源がある所でも油断はできないと思えます。行政側が町のダメージを少なくするために、日帰りの観光客に投資しない事だと思えます。もちろん、流行がある時に来て頂いた方へのサービスについては努めなければならないと思

ます。経済構想自体が観光に大きく寄りかかっている時に梯子を外されてしまうと生きていけない状態になると思います。その一つの例が先程の農業や一次産業の例になります。その人達は資源へのダメージどこまで少なくするかが重要だと思います。備えがあれば良いのではないかと思います。

花里委員：

有難うございました。

横島委員：

ノイズ論は良く分かるのですが、ノイズを認識できる人とできない人が居ると思います。ノイズを認識できた場合は、問題解決の道を開く事ができます。しかし問題は、ノイズを認識できない方が多い事だと思います。百何十年間の軽井沢の歴史の中でノイズが蓄積してしまった事に対する解決策についてのお考えがございましたらお聞かせ下さい。

B氏：

私もノイズ論といったものの、責任ある答えを用意していませんが、非常に単純に言うと、原点・アイデンティティを確立する事だと思います。おっしゃる通り、百何十年間の間に様々なノイズが加わっていますので、原点やアイデンティティ自体が見つけにくい状況であると思いますが、それは町の人達で何度も話し合い、「本当に軽井沢は何であったのか」という事を見つけ、原点に帰していくしかないのではないかと思います。しかし、私の様に外部の人間から見ると、軽井沢は宣教師が作った上質な別荘地としての歴史は他の都市にないものであり、圧倒的に潤っていると思います。現在は牧師さんの数が少なくなっている状況ですが、町のなかの教会は必ず開かれています。深く敬意を示しております。

中村委員長：

ノイズの問題やそこからの資本の問題ですが、成功した都市は同じ問題で悩んでいます。湯布院が典型的な例になりますが、上手くいった事が原因で現在苦しんでいます。しかし、軽井沢が湯布院とは少し違い期待ができるのは、別荘の方に敏感な方が多い事だと思っています。もし、将来、軽井沢町がその様な問題に直面し、厳しい規制を定めたとしても、別荘の方々には応援して下さいますか？

B氏：

別荘を持っている90%以上の方は、「軽井沢ならでは」の事に対して反対する事はないかと思います。行政の方が意を決して実施する時には、応援されると思います。

中村委員長：

我々もよそ者ですが、軽井沢が、その様な問題で苦しんでいる全国の先例に立って新しい方向を示して欲しいと思います。

花里委員：

突然ですが、震災に対して軽井沢町が行うべきものは何かあるでしょうか？

B氏：

震災については学会で報告を聞いたりする程度ですので、特に軽井沢町がという意見はございません。

中村委員長：

同じ様な認識を持った方がパブリックコメントに多数ご意見頂いております。我々もしっかりと受け止めて、回答を出す必要があると思っています。また引き続き、こちらからお尋ねする事があるかと思いますが、その時は宜しくお願い致します。

もう少しお時間がございますので、最初の質問に戻りますが、普段は軽井沢にお出でになる時は週末が多いのでしょうか？どの様な利用形態になるのですか？

B 氏 :

会社に勤めていた頃は、先程申しました 3 回の大型連休に来る以外は、週末利用でした。現在はもう少し長く滞在しています。

中村委員長 :

冬場はお使いにならないのですか？

B 氏 :

5 年前に別荘の位置を変えたのですが、そこでは残念ながら、急な坂道があるため使用できなくなりました。

中村委員長 :

別荘の使い方も 100 年間で随分と変わってきていると思います。軽井沢で仕事をして、必要ならば東京へ行くダブルローテーション的な形態の方も増えていると聞いているのですが、お気づきの点等はいかがでしょうか？

B 氏 :

私自身は情報ツールがありますので、軽井沢に居る時も仕事をしています。増々、人に会う事が増えている気はします。新しいツールが発明される度に、世界はフラットになると言われていますが、現実には逆の方に進んでいると感じます。増々集まらなければならない状況になっていると思います。

中村委員長 :

直接人と人が会う機械が増えてくる事は間違いないと思いますが、その場所が東京を前提としなくても良いのではないかと考えています。観光とは違う形の出会いが将来あるのではないかと考えております。

森山委員 :

差支えなければ、ご家族であるご婦人やお嬢様、女性の方は、軽井沢での生活をどう感じていますか？こちらで食事を作ったりする事を好んでいるのでしょうか？どの様にここでの生活と関わっているのか教えて頂ければと思います。

B 氏 :

私の家内も同業者ですが、〇〇に居る時は料理をあまり作りませんが、むしろ、こちらに来た時の方が時間的に余裕があるため、楽しんで作っています。

森山委員 :

有難うございました。

中村委員長 :

有難うございました。また宜しくお願い致します。

(B 様 ご退場)

Udc (護) :

有難うございました。それでは 15 分休憩を取りたいと思います。ロビーに茜屋珈琲館に飲み物を用意して頂きましたので、移動して頂いて休憩をとって頂ければと思います。慌ただしいですが、宜しくお願い致します。

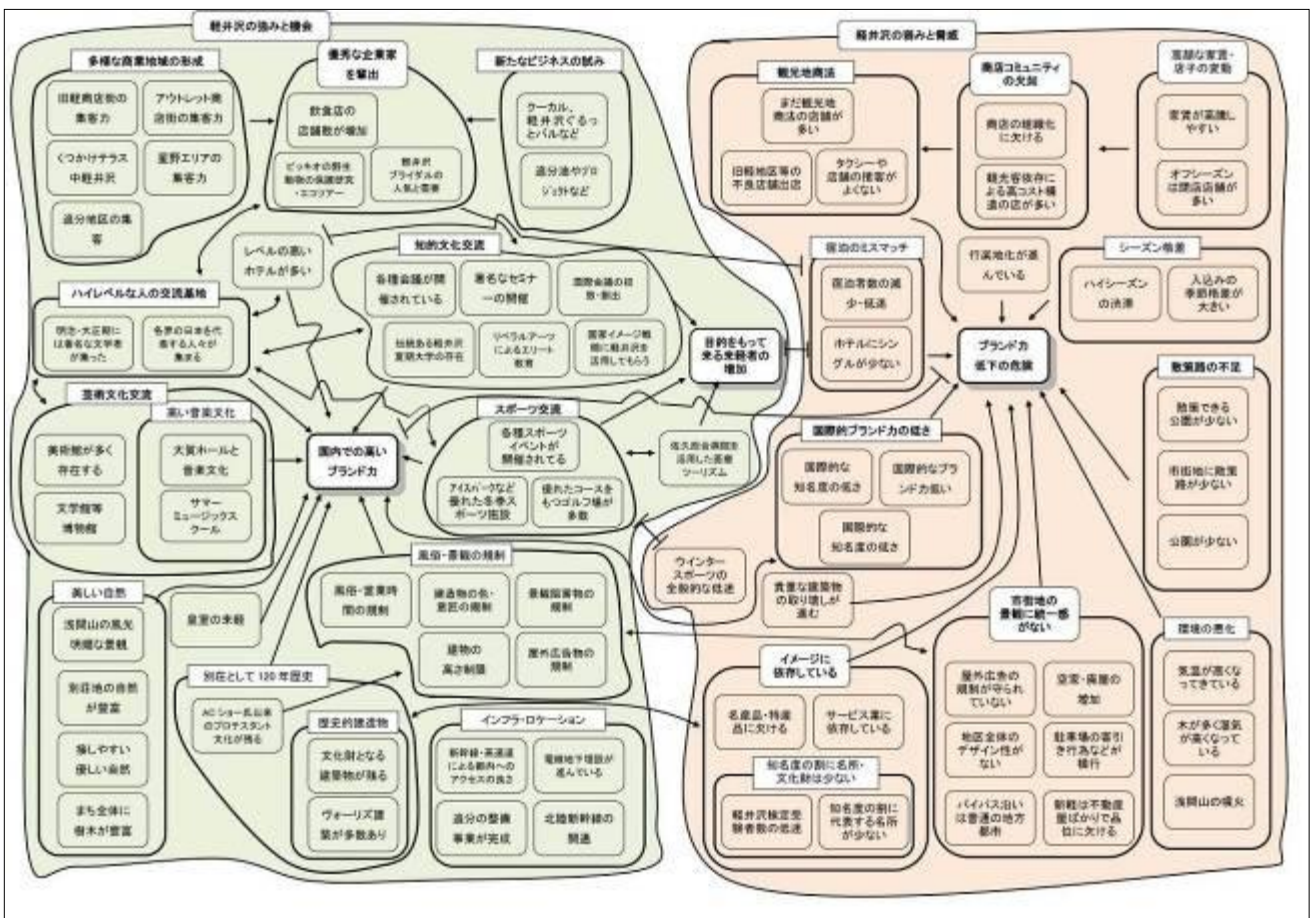
(C 様 ご入場)

中村委員長：

今日は貴重なお時間を頂きまして、有難うございます。私、この委員会の委員長をやっております中村と申します。今日はパブリックコメントを頂いたお三方から代表という形でお越し頂きました。別荘の方から2名、町民の方から1名という形でございます。Cさんが町民の代表となります。短い時間ですが15分プレゼンテーション頂き、その後、質疑応答に15分時間を取りたいと思います。宜しくお願い致します。

パブリックコメント提出者による意見発表③：C氏（町民）

Cと申します。宜しくお願い致します。早速ですが、資料をご用意しましたので、それに沿って発表させていただきます。



軽井沢の別荘地としての120年の歴史が軽井沢の高いブランド力を作ってきたと想定しています。

私達の軽井沢の命、生命線は、そのイメージからなるブランド力であると考えています。

一方強みと機会では、中段、大賀ホールや美術館等の芸術文化交流、経団連、各種学会等の会議セミナーや知的文化交流、スポーツ交流を含めてハイレベルな人達の交流が軽井沢のブランド力を強化してきたと思われま。

また、上段の商業活動につきましては、かつては旧軽井沢に集中していたものが、アウトレットができてきたり、星野エリアでハルニエテラスがオープンした事で分散しています。分散した事で渋滞対策にも繋がっているのではないかと考えています。今後、中軽井沢や追分においても活性化できれば軽井沢全体の魅力を高められるのではないと思っています。

また一方、右の方に移りますと、ブランド低下させる様を脅威もあります。新軽井沢、旧軽井沢地区においては、まだ観光地商法が残っており、問題ある店舗が見受けられます。また、どうしてもシーズン格差があるといった事で商店街にしっかりしたコミュニティが出来あがっていない事も問題だと思っています。

また、景観に関しましては、軽井沢駅前是不動産通りになっていますし、私が住んでいる中軽井沢も胸を張れる状況ではございません。市街地の景観は全体的に問題を抱えていると思っています。

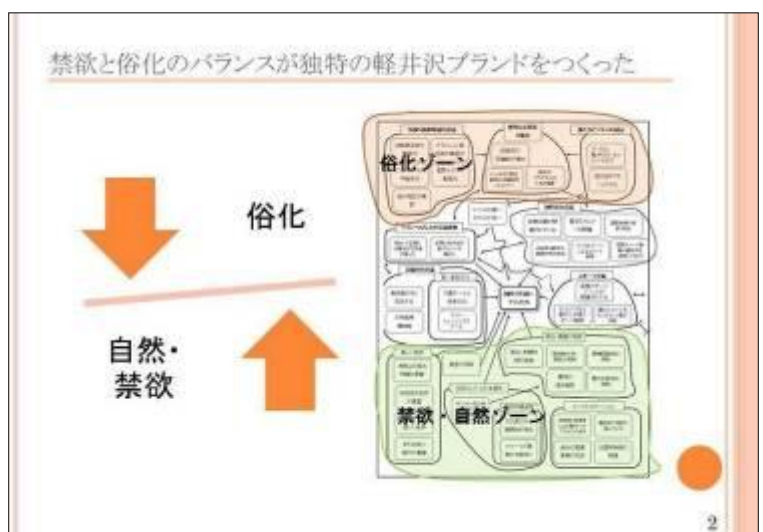
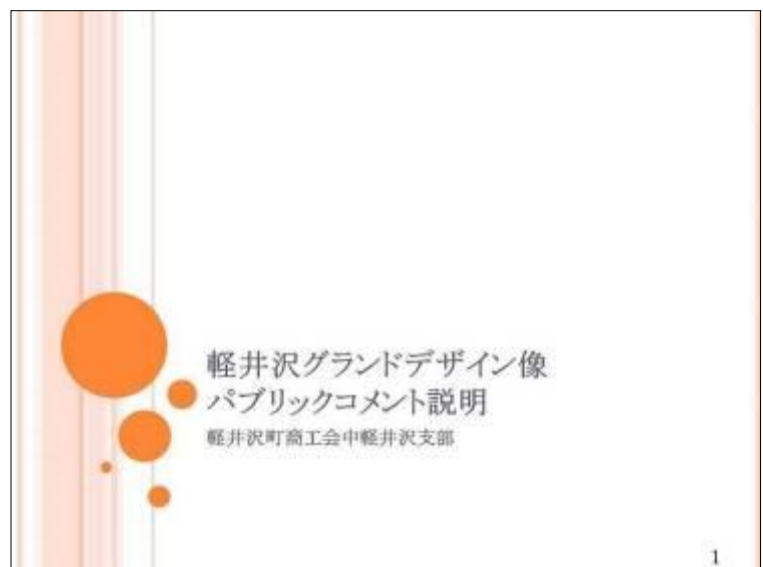
また国内ブランド力に比べ、国際的にはまだまだ知名度が低い事が長期的な課題として挙げる事ができると思います。

軽井沢は知名度の割に、京都、奈良と言ったようなハードな文化遺産が非常に少ない所で、現在ナショナルトラストの皆様が頑張っています。今後も文化遺産を見出し、保存して欲しいと思いますが、現実的には無形の歴史文化を活かさざるを得ない、イメージ先行型の町だと思っています。それだけに、「ブランド力」が特に重要だと考えております。

それでは、次の資料の説明をさせていただきます。

「禁欲と俗化のバランスが独特の軽井沢ブランドをつくった」ですが、軽井沢では俗化・商業主義と自然志向・禁欲主義が微妙なバランスを持ってせめぎあっており、そこから独特な文化と別荘コミュニティが生まれたと思っています。

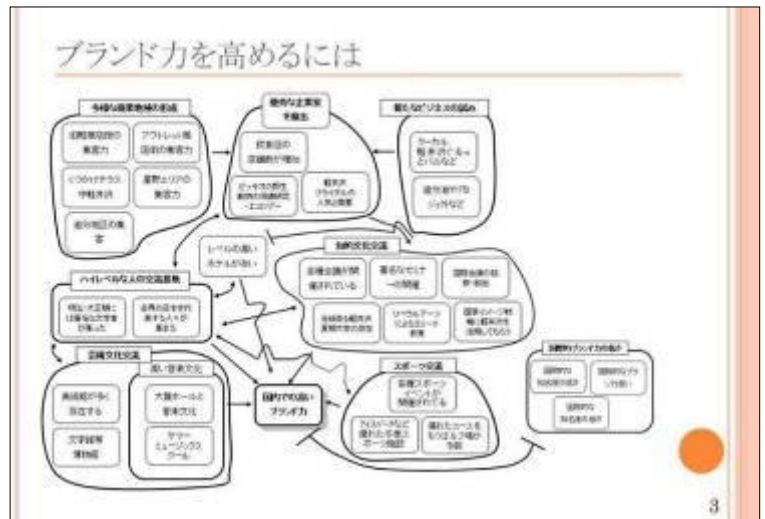
「強みと機会」の上段の方が商業主義や俗化的な方向であり、下段が自然志向、禁欲主義的な方向です。そのせめぎあいの中間部分にて芸術やスポーツ等の様々な文化を見出す事柄があり、それが現在に繋がる軽井沢ブランドを生み出したと考えました。俗化だけに偏っても、禁欲だけに偏っても現在の軽井沢文化、ブランド力は生み出されなかったのではないかと考えています。この軽井沢ブランドの維持、向上が我々の責務であると考えています。



そこで「ブランド力を高めるには」という事ですが、積極的に作り出す事と守るべきものはしっかり守る事の両方が必要だと考えますが、商工会は経済団体ですので、積極的に作り出すという立場から考えたいと思います。それには芸術文化の交流、知的文化の交流、スポーツ文化の交流等の高度な交流の場を目指し、特にハイレベルな人達の交流基地を作っていく事が重要だと思っています。

過去ハイレベルな人達の交流によって、

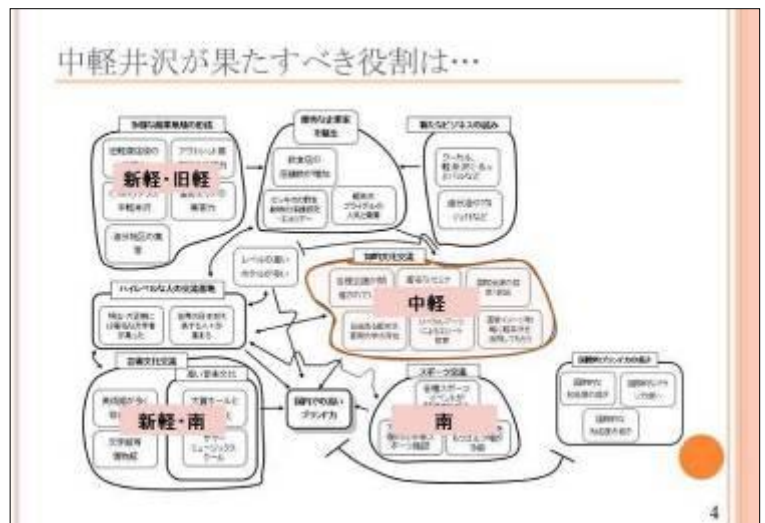
現在のステータスが作られてきたと思います。その名誉が大賀ホールや夏期大学と言った施設であり、それらを有効活用し、新しい交流の場を作っていく事も重要だと考えています。大賀ホールは非常に成功していると思いますが、夏期大学につきましては、歴史的な文化ですが、どこの公民館でも行っている様な教養講座の扱いになってしまっている気がします。やはり有効な発信をしないと、非常に勿体ないと思います。その様な事も戦略的に発信できるようにするべきだと考えております。後は、国際的なブランド力をどう育て、強化していくのかという事も今後の重要な課題だと考えております。



そこで「中軽井沢が果たすべき役割は」という所になります。「芸術やスポーツ」は、大賀ホール、美術館、風越地区のスポーツ施設の場所から見ても、新軽井沢や南地区が中心になると考えられます。

また商業地域はそれぞれの個性的な面を持って成長すべきだと思いますが、観光客は新軽井沢、旧軽井沢地区が中心になると考えています。

追分は中山道の宿場町として歴史的な印象が強い地区になると思います。

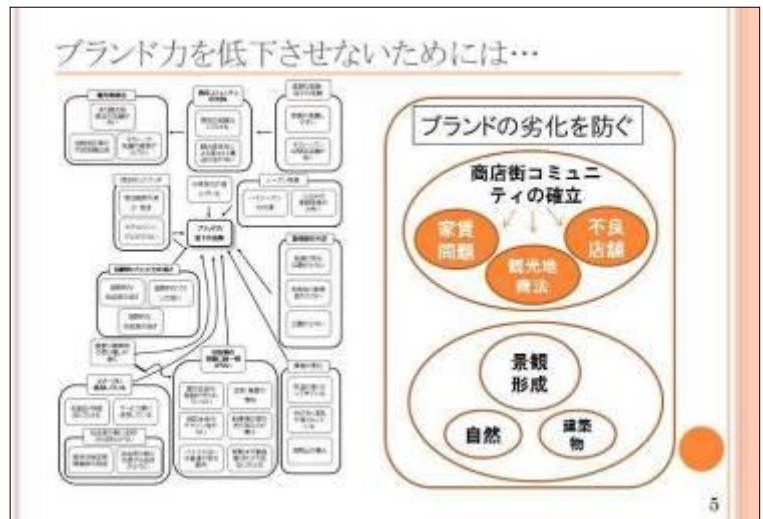


そう考えますと、知的文化の交流はくつけテラスもある中軽井沢が受け持つ所だろうと思います。従って、国際会議施設等は中軽井沢につくってもらう方が有難いと思っています。また中軽井沢は地元住民や別荘のお客様を対象としていかなければならないと考えています。リピートしてもらえないと商売が成り立たないのですが、観光地商法ではない本来の商売をしていかなければならないと思っており、それが中軽井沢のもう一つの役目だと考えております。

ブランド力をどう低下させないか、につきましては、ブランド力を低下させないために、規制を加えたり、景観を作っていく事を考える必要があると思います。景観は、景観阻害物の除外や適正な風俗の維持による規制と統一したデザインによる景観づくりの二つの方面からのアプローチが必要だと思えます。

中軽井沢につきましては、くっかけテラスがランドマークにはなると思いますが、この未来構想会議の各地区のデザイン

を考えてもらえるという事ですので、非常に楽しみにしております。同時に軽井沢は、商店街のコミュニティがきちんと出来ていない事が非常に問題だと思っています。観光地商法、不良店舗、家賃の問題の解決には、やはり商店街コミュニティの確立が非常に重要かと思われます。商店が多い旧軽井沢だけでなく、中軽井沢にもしっかりと商店街コミュニティが出来ていない事が現状です。中軽井沢の場合は、一度、商店街が減ってしまった状態になりましたが、この所、新しい人達が入ってきて店を開き始めている状況です、新しい商店コミュニティづくりを進めなければならないと思っています。



中軽井沢のクロスSWOT	
	<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽井沢の中にある事 飲食店が増えている 南側の人口が増加している くっかけテラスの完成とともに知的なイメージがでてきている。 146号線沿いに多くの別荘があって有力な別荘人口マーケットを抱えている 域内及び近隣の周辺人口が多く、町民・別荘者ともにターゲットにできる地勢的な位置にある。 外部から来た人達が起業している。 北側を中心に軽井沢の中ではコミュニティ活動が熱心である 南側の店舗も増えている 公共機関や事業所の事務所が多く、昼間・夜間人口も安定している。 新緑、旧軽のかなり商業的なイメージと比べて落ち着いたイメージになっている 日本で最初のカラー映画撮影地(カルメン故郷に帰る)、番付時次郎シリーズなどがって映画に縁が深かった歴史がある <p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> JRの駅ではなくなったこと 観光客の少なさ 閉店した店舗が多い、シャッター店舗やカーテン店舗が多い 一閉店店舗が連続化しつつある。 最寄品はスーパーツルヤやバイパス沿いにロードサイド店に顧客が奪われて厳しい経営状況になっている。 ツルヤに入るための渋滞の発生 駐車場が少なく、位置もわかりづらい 物販の店舗が少ない 18号線、146号線の交通量が多く、商店街が一体化しやすい。 郊店舗が多い割に家賃が高い 商店街が連続化されていない、商工会に入っていない店舗も多い 樹木が少なく、景観がどこどこでもある町村景観
	<p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ハルニレテラスなど星野エリアができて集客している 駅前道路拡幅があり、再開発の可能性もある 軽井沢ブランドの知的交流基地としてのイメージが近い <p>脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> バイパス沿いのロードサイド店舗の増加 北側商店街にとっては、南側の店舗増は脅威 飲食店舗のなかには閉店するところもでてきている 軽井沢ブランドの衰退 浅間山の噴火
	<p>強みを生かして機会を生む</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業的な新緑、旧軽のイメージに対して、これからのまちづくり、景観づくりにもよって、学びや知的イメージを発信していく 国際会議場を中軽井沢につくり、学びと知性の地としてのイメージを強化していく 湯川ふるさと公園を北側に延伸して散策ルートをつくり、周辺客を増やしていく 公園を野外交流基地とする 景観デザインを明確化して新たな景観を進める 駅前通りの拡幅に合わせて景観コンセプトに合った駅前通りの再開発を進める <p>弱みを克服して機会を逃さない基本戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の削減 景観阻害物の除去 商店街の連続化を進める 組織化を通して、需要に比べて高すぎる家賃、観光地商法をなくす研修、不良店舗の進出抑制、戦略的な店舗・オフィスの誘致、屋外広告物などの規制遵守、などを進める。 イベントによる情報発信とイベントを通して商店街コミュニティの強化 コミュニティの強化を通して防災対策も進める <p>脅威を克服するために差別化する</p> <ul style="list-style-type: none"> 相対的に不動産業が少ないので、新しく集ってきた起業家にコワーキングやソーシャルビジネスなど新しいオフィスの場を提供し、支援する。 大学の研究室やシンクタンクなどの出張オフィスを誘致する

こちらの図が中軽井沢のクロススポットという事で作成しました。上段の枠が中軽井沢の「強み」と「弱み」になり、左側の枠が「機会」と「脅威」になります。中軽井沢の強みと弱み、機会と脅威についての内容については時間がございませんので省略させていただきます。中段にございます「強み」と「弱み」、「機会」と「脅威」を組み合わせて、どの様に戦略をとるのかについて考えました。

「強み」と「機会」が合わさった箇所が「強みを生かして機会を生む」戦略となり、「強み」と「脅威」

威」が合わさった箇所が「脅威を克服するために差別化する」戦略になります。「弱み」と「脅威」に関しては、分けて考える方がセオリーかと思いますが、今回のグランドデザインは50年、100年の長期的なものでありますので、今回は一纏めにさせていただきました。

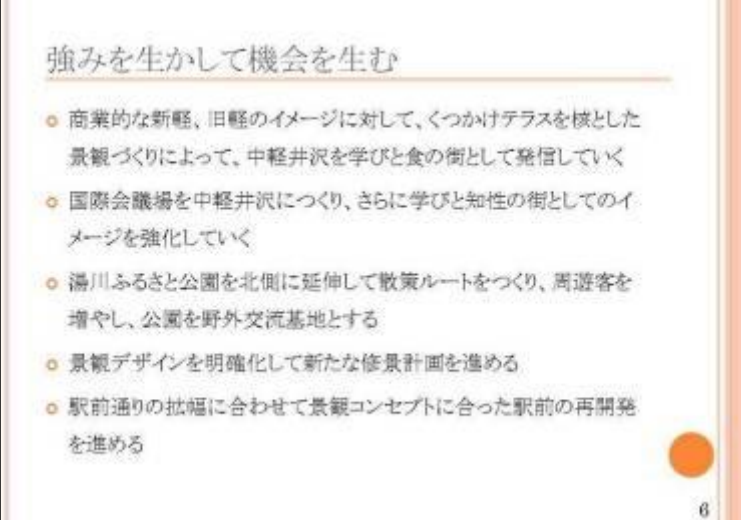
そこで「強みを生かして機会を生む」という取り組みにつきましては、商業的な新軽、旧軽のイメージに対して、くっかけテラスを核とした景観づくりによって、中軽井沢を学びと食の街として発信していければ良いと思っています。

また、国際会議場を中軽井沢につくり、さらに学びと知性の街としてのイメージを強化していく事、湯川ふるさと公園を北側に延伸して散策ルートをつくり、周遊客を増やし、その中で公園を野外交流基地として出来れば良いと考えます。

景観については、景観デザインを明確化して新たな修景計画を進める、駅前通りの拡幅に合わせて景観コンセプトに合った駅前の再開発を進める、という様な取り組みが必要ではないかと考えております。

次に「脅威を克服するための差別化する」では、相対的に新軽や旧軽地区に比べると、不動産業が少ないため、新しく集まってきた企業家にコ・ワーキングやソーシャルビジネス等の新しいオフィスの場を提供し、支援していきたいと考えております。

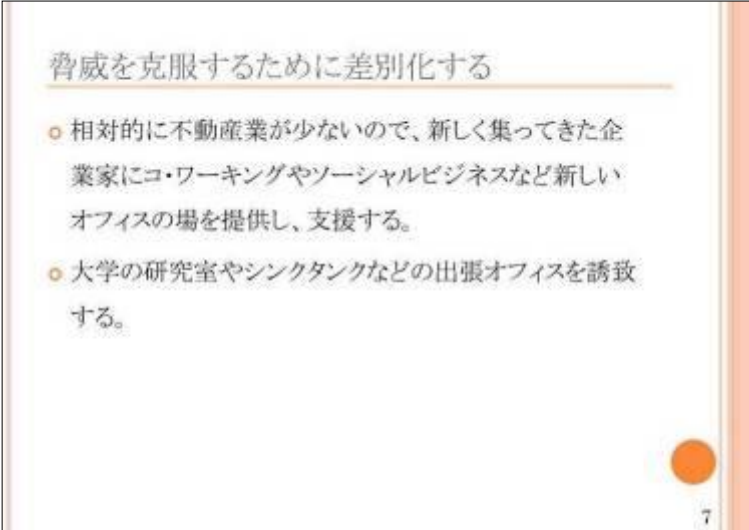
また、大学の研究室やシンクタンク等の出張オフィスの誘致を進めたいと思っています。



強みを生かして機会を生む

- 商業的な新軽、旧軽のイメージに対して、くっかけテラスを核とした景観づくりによって、中軽井沢を学びと食の街として発信していく
- 国際会議場を中軽井沢につくり、さらに学びと知性の街としてのイメージを強化していく
- 湯川ふるさと公園を北側に延伸して散策ルートをつくり、周遊客を増やし、公園を野外交流基地とする
- 景観デザインを明確化して新たな修景計画を進める
- 駅前通りの拡幅に合わせて景観コンセプトに合った駅前の再開発を進める

6



脅威を克服するために差別化する

- 相対的に不動産業が少ないので、新しく集ってきた企業家にコ・ワーキングやソーシャルビジネスなど新しいオフィスの場を提供し、支援する。
- 大学の研究室やシンクタンクなどの出張オフィスを誘致する。

7

「弱みを克服して機会を逃さない基本戦略」としては、空き店舗の削減と景観阻害物の除去、商店街の組織化を進める、商店街コミュニティを強化し、空き店舗対策、需要に比べて高すぎる家賃や観光地商法対策、不良店舗の進出抑制等、このような具体的な取り組みも必要だと思います。また戦略的な店舗・オフィスの誘致、屋外広告物の規制遵守等も進めていきたいと考えています。

また、イベントによる情報発信とイベントを通して商店街コミュニティの強化、その強化を通して防災対策も進めるといった取り組みも行いたいと考えております。

以上、簡単に説明させていただきましたが、軽井沢の持つ、俗化・商業主義と自然志向・禁欲主義の文化的な背景の中で、「知識と交流」の部分を受け持って表現する事こそが中軽井沢の重要な役割であり、同時にこの役割を果たすことによって経済的な付加価値が拡大し、地域の活性化に繋がっていくのではないかと考えています。

中村委員長：

有難うございました。それでは、残り 15 分程度、意見交換させて頂きたいと思います。

森山委員：

強みと弱みマップ資料の「強み」の箇所に「佐久総合病院を活用した医療ツーリズム」と記載されていますが、どの程度で成功しそうな状況なのでしょう？

C氏：

まだ全く取りかかっていない状況です。支部の役員が集まった際に、この話が出てきたのですが、どう繋げていくかは今後の課題です。

森山委員：

これからと言う事ですね。


藤巻委員：

佐久総合病院の新しい医療センターを現在建設中です。来年の3月に竣工予定です。高度医療を実施する佐久地域のセンター的な役割を果たす施設であり、病院と連携して進めていく方針です。

花里委員：

弱みを克服して機会を逃さない基本戦略

- 空き店舗の削減と景観阻害物の除去
- 商店街の組織化を進める
- 商店街コミュニティを強化して空き店舗対策、需要に比べて高すぎる家賃、観光地商法対策研修、不良店舗の進出抑制、戦略的な店舗・オフィスの誘致、屋外広告物などの規制遵守等を進める。
- イベントによる情報発信とイベントを通して商店街コミュニティの強化
- 商店街コミュニティの強化を通して防災対策も進める


8

どこが医療圏なのですか？

藤巻委員：

佐久地域になります。

森山委員：

先週、その話をよく知らずに、その様な高度医療の道はないかと提案させて頂きました。案の1つでしたので、大変興味を持っております。

中村委員長：

佐久郡になるのでしょうか？

藤巻委員：

北佐久郡と佐久市、小諸市、少し離れていますが上田市の方になります。

中村委員長：

今日は小さな会議ですので、ざっくばらんに意見交換させて頂きますが、宜しくお願い致します。

黒須委員：

「学びや知的イメージを発信していく」や「知的交流基地」等の言葉を使用されていますが、住民目線で捉えた際に、この「学びや知的イメージ」といったコンセプトは上手くマッチしていくものなのでしょうか？

C氏：

今回はランドデザイン像という事でしたので、少し大きさに書かせて頂いた部分もございますが、実際には「人と人の交流がある町」をコンセプトとして、街中の情報発信、プラット教室や音楽発表の場等の様な交流基地を創出する取組み等を検討しています。

横島委員：

中軽井沢は、住民居住性が高い場所です。軽井沢の他地区とは質の違う地域性があると思います。主役性をテーマで中軽井沢を考えた時に、他地区より「居住住民」が高く挙がってくると思います。新軽地区にそれを求めても、なかなか出てきません。ましては、旧軽地区は別荘族が当然の主役として闊歩しています。この様な地区による差別、差異化を中軽井沢の地元住民の方の認識の中にはどの様に位置づけられているのでしょうか？この全体を考える上で、貴意になる問題ではないかと考えています。土屋さんのお立場でも、地域のお立場でも構いませんので、住民が多いという中軽井沢の特性をどう将来に活かしていくか、についてのご意見をお伺いできればと思います。

C氏：

まずは、商工会の取組みとして商業マーケティングの実態を見据えて場合、観光客をターゲットにせず、地元住民や別荘滞在者をターゲットにするべきだと考えて取り組んでいます。理由としては、現在ある商業施設で観光客を誘客できるとは思えない点と、観光客の様にリピーターではない客をターゲットとした場合、新規顧客対象者を招くためのコスト抗争が起こり、販売価格も高くなりがちになる様な事が起こる気がします。結果的に顧客満足度を低下させる事に繋がるのではないかと考えています。この様な理由から中軽井沢商工会支部としましては、その様な取組みを心掛けております。ただ、言われた様な住民の方に対しての満足度に関しては、実際、まだ調査が進んでいない状況です。

横島委員：

これだけのデータを収集し、分析されているので、この資料は必ず住民説得の好材料になるものだと思います。この資料そのものが、説得材料になると思います。

C氏：

今回は未来構想という事で少し背伸びをして作成させて頂きました。今後、検討していきたいと思えます。

横島委員：

この資料は大変良いと思えます。

C氏：

今後、この資料を基に地域の人達にどう伝えていくのかが大事になると思っています。

中村委員長：

本日の資料はパブリックコメント資料には入っていない内容もございますので、提出後に皆さんで議論されたものだと思います。議論すべき場所が沢山ある中で、中軽井沢が一番まとめる事が難しい地区だと思っているのですが、その反面、非常に可能性も多く持っている地区だと見えています。本日はこれだけのものを提出して頂いて、大変心強く思っています。

特に旧軽井沢で一番顕著になっている外部資本による攪乱は、非常に大きな問題だと思っています。中軽井沢の場合には、まだこの様な問題は顕在化しておらず、なおかつ、国道146号線沿いに、最近新しいショップやレストランが立地してきている様に思えます。これだけのレポートを中軽井沢市民の方が議論してお出しになられた力があれば、様々な事が可能ではないかという印象を受けました。軽井沢のネガティブな部分、特に外部資本に対しては比較的少ない地区でありますので、あとは地元の商店街の方々が目標に向かって一丸となるお気持ちが強まれば、旧軽井沢の様な事にはならないのではないかと期待があります。これは私の総括的な期待です。

我々も調査不足であり申し訳ございませんが、具体的な点で一つ教えて頂きたいと思えます。中軽井沢駅の南側についてはどの様にお考えですか？北側のイメージは作成しやすいのですが、南側はイメージがはっきりしていな状況です。南口から湯川ふるさと公園は遠からず、近からずの微妙な位置にあります。立派な公園がある事は、大きな材料にはなると考えているのですが、南側について、地元の方はどうお考えでしょうか？

C氏：

商工会の中軽井沢支部もなかなか南側まで手が回っていないのが現状です。我々の議論の中では、まず一番は農業通りの渋滞問題が挙げられます。強みとしては、南側の人口が増加している事と、なおかつ、レストランや商店もできつつある状況となってきている事です。脅威として考えている事は、南のバイパスのロードサイド店舗が増えてきている事です。

中村委員長：

湯川ふるさと公園は、北側の川沿いの遊歩道をハルニテラスまで延伸してはどうかという提案がありました。我々の中でも同じ様な議論が出ています。ふるさと公園は魅力的な場所なのですが、ただの緑地ではなく、もう少し利用の仕方を工夫できれば、活性化に繋がるのではないかと思っています。何か提案出来ればと考えているのですが、地元の方から見て、あの公園はどの様にお使いになられているのでしょうか？

C氏：

中軽井沢の18号から長倉神社に渡る太鼓橋があるのですが、あの間が一番親水性のある場所であり、夏は家族ずれの方が水浴びをして遊んでいる等が見受けられます。しかし、ふるさと公園としては、整備されていない場所です。現在、ハルニテラスが集客力を図っており、また、中軽井沢のくっかけテ

ラスと駅も非常に多くのお客さんをお呼びしています。どちらも大きな集客力がある割には、それを中軽井沢が活かし切れていない状況だと思っています。やはり線と線であったものを面となる様に公園として整備できれば、周遊しながら中軽井沢の中を歩いて頂けるようになるのではと思っています。それが中軽井沢にとっては一番大事ではないかと思っています。

中村委員長：

今までの公園は、緑地があるだけのものが多いと思います。もう少し様々な機能と結合させてはどうかと考えています。医療関係、福祉関係と結合させる等、結合の仕方は色々ございますが、異質なものとされるものでも、公園と相性が良いものはどんなものでも結合すれば良いと思っています。地元の方は、別の希望やお考えを持っているのではないかと思います。如何でしょうか？

C氏：

現在の所、その様な具体的な希望があるわけではございません。

中村委員長：

このレポートのなかでは、「食文化」や「ナレッジ中心」という言葉がございましたが、国際会議場はその辺りから出てきたものなのでしょうか？ナレッジという事の意味に対して様々な可能性があるかと思いますが、もう少しお話をお伺いできればと思います。中軽井沢には別荘地や様々な大学施設がありますので、その方達が集まる場所を作る事も一つ考えられと思います。

C氏：

国際会議場は、少し大きすぎた提案だったかなと思っています。しかし、一つに PR を含めたものが作ればと思っています。

中村委員長：

駅と図書館が併設されたくつかけテラスは、非常にユニークで素晴らしい事だと思います。この施設をヒント、核として、繋げていく事が一番考えやすい事だと思います。

C氏：

やはり、くつかけテラスはランドマークだと思っています。

中村委員長：

地元商店街の人達が、どこまで結束するかで全てが決まってくると思います。中軽井沢は難しいですが、大いに期待している場所です。

C氏：

商工会の中だけでは難しい問題もございます。商工会の中から分科会や部会の様に別れる事もありますが、新たな中軽井沢の組織を立ち上げる必要はあるかなと思っています。

中村委員長：

少なくとも、旧軽井沢の様な形にならないという決心を皆様が共有しておられれば、様々な可能性が出てくるのではないかと思います。

C氏：

そこは商売をしてく上で、一番重要な問題として取り組んでいきたいと思っています。

浅野委員：

軽井沢の農業と製造業について、商工会としてはどの様に見ておられますか？

C氏：

商工会でも特産物開発を手掛け始めました。第一段として軽井沢産の黒豆を使用した品を商品化する取り組みが進んでおり、サンプルを作りだしている所です。第六次産業化という様な産業が中軽井沢にはありませんので、良い特産品が出来ればと考えております。

森山委員：

黒豆を使用した何をお作りになる予定ですか？

C氏

案に出ておりますのは、黒豆を使用した焼酎、ソフトクリーム、豆腐等です。

中村委員長：

中軽井沢駅の南側で農協が開いていたマルシェ（直売所）が、今後、発地の方に移転する事になっていると思います。移転理由は自動車のアクセス性が大きな原因だと思っておりますが、人が集まる駅付近に直売所がある事はとても面白いと思っています。食文化との関係を考慮しますと、大きな直売所は発地に移転しても、賑わいとなるサテライトの様なものはあった方が面白いのではないかと思います。外から見ているとその様に感じます。

花里委員：

くっつけテラスや湯川ふるさと公園はどのような方が利用しているのでしょうか？

C氏：

細かな利用者の実態は把握できておりませんが、くっつけテラスは地元の方が大半だと思います。図書館は別荘の方も多いいと思います。湯川ふるさと公園は、つるやさん東側等は、観光者の方や別荘の方の利用があるのではないかと思います。くっつけテラスから湯川ふるさと公園までを利用する方は少ないと思います。

中村委員長：

くっつけテラスで集会を開催する等はございますか？

C氏：

多目的スペースがあり、稼働率は非常に高い状況です。セミナーや会議等が開催されています。どの多目的スペースよりも利用率は高いです。

中村委員長：

地元の方の利用が多いのですか？

C氏：

地元の方も多いのですが、町外の方もセミナーに使用したりしております。12月23日は千葉大学の佐藤研究室がそこでセミナーを開催する事になっております。様々な方の利用が増えてきています。

事務局（二井氏・幹事会委員）：

中軽井沢の商店街は駅前の通りと国道18号がクロスしているかと思っております。先程中村先生からのお話にもございました「湯川ふるさと公園」との関係からすると、どちらも関係がとれると考えられるのですが、現在新しく商店が増えたり、元気がある店舗があったりする場所はどちらになりますか？あるいは商工会の中では、駅前通りと国道18号とではどちらに重きを置いた方が良い等の議論は出ているのでしょうか？

C氏：

現在、新しく元気がある店舗では、飲食店が非常に多いです。

事務局（二井氏・幹事会委員）：

駅前通りの方ですか？

C氏：

駅前通りから一本内に入った通りに面している店舗です。経営者もとても若い方が多いです。

事務局（二井氏・幹事会委員）：

地図で示すと、駅の右上の辺りでしょうか？

C氏：

地図で言いますと、例えば、千ヶ滝通り（146号）を上っていった先を左側に入った辺りや、18号の上田信用金庫の裏の辺りになります。

事務局（二井氏・幹事会委員）：

新しい方が店舗を開くときには、商工会としても土地を貸したりする事についても積極的に動いているのですか？

C氏：

商工会を通して行う事もありますが、ほとんどは不動産業者になります。商工会としても空き店舗情報等は提供していく取り組みは考えておりますが、権利問題等がございますので、なかなか難しい部分がございます。

事務局（二井氏・幹事会委員）：

割とお店を開業しやすい状況ではあるのですか？

C氏：

何とも言えない状況です。

中村委員長：

これから中軽井沢周辺プロジェクトが進行すればするほど、先程言われていた様なマイナス要因も増えてくるのだと思います。あらかじめ、しっかり検討しておくべきだと思います。成功した後では、手遅れになると思います。

それでは、この辺りでよろしいでしょうか。本日はどうも有難うございました。また、宜しくお願ひ致します。

（C様 ご退場）

中村委員長：

委員の皆様、どうもご苦労様でした。大変有意義な意見交換になったと思います。時間が十分ではございませんでしたので聞き足りない部分もあったかと思いますが、大変参考になったと感じています。残り10分少々時間がございますので、ご感想なりご意見がございましたら、ご発言頂ければと思います。宜しくお願ひします。

黒須委員：

軽井沢の居住者と別荘居住者と日帰り観光客に対する戦略が必要になってくるかと思いますが、居住者の声、顔が少し見えない状況だと思います。本日のパブリックコメントの中では受け取れなかった部分ですので、居住者が軽井沢に求めている事が何なのか、簡単に教えて頂ければと思います。

中村委員長：

Cさんの場合は居住者ですが、どちらかと言うと技術をやられている方のご意見になると思います。パブリックコメントの中には、幾つか意見はございましたので、それにつきましては注目して頂ければと思います。今日のCさんのご意見は、中軽井沢の居住者ではあるが、商工会の中心メンバーとして意見ですので、全てではないけれど非常に重要な意見として考えたいと思います。それ以外の方の意見も視野に入れる必要があると思います。

横島委員：

役場の方がお聞きになると誤解を招かれるかもしれませんが、あえて申し上げさせていただきますと、やはり軽井沢を考える上で、Aさんのご意見が一つのモデルになるのではないかと思います。別荘が軽井沢を育てているという考えのもと、別荘民にとってのコンファタブルな地域として維持するためのもの、という様な一方的な意見が出てきます。それは一つのエゴだと思っています。一つのリクエストではありますが、そもそもは住民がコンタファブルに生きなければ土地は成り立たないと考えます。現在、地域の主体性の順序だてが明確になっていないと思います。あえて言えば間違っているのではないかと思います。まずそこに生きている人が居て、その人達の働く場所として別荘民が提供してくれる様々な商品があり、地域が成立しています。どちらが主役だと言われれば、居住者だと思います。その認識が、軽井沢の皆さんは比較的薄いと感じます。何となく、別荘民に寄り添っていけば食べていける、観光客に寄り添っていけば商売になるという様に、あえて波風をたてなくても生活が出来れば良いという考えを持っているのではないかという感触を持っています。しかし、そこは違うのではないかと考えていますので、そろそろその感触を捨てるべきだと思います。言い過ぎになるかもしれませんが、「我々が我々の故郷を育てる、ついでに別荘民も良い生活をさせてやるぞ」という認識の転換点に差しかかったのが、100年の切り替えしではないかと考えています。黒須先生の質問に直接答えられているかどうかは分かりませんが、その意味では、軽井沢住民の軽井沢住民意識というものは、私は望ましい濃度を持っていないのではないかと思います。淡泊すぎるのではないかと思います。

花里委員：

良い事例になるか分かりませんが、東京の人達が中軽井沢の別荘地に定住しようと家を建てるケースが多くあるそうです。その場合、現在ある樹木を切り、イングリッシュガーデンを作りたいという要望が一番多いようです。別荘の人達から見ると、「樹木を伐採するとは何事だ」という考えですので、軋轢を生んでいるようです。ただ、別荘地とはいえ、樹木があまりにも多い環境は厳しいのではないかと思いますので、同情的になります。その辺りの環境に対する意識、認識違いが、ある部分に反映されているのではないかと理解しています。

中村委員長：

植生環境に関する意見の問題は取り上げたいと思っています。進士先生も以前お話をさせていましたが、現在の別荘地内のカラマツを主体とした景色をどう捉えるのかという問題がございます。もともとは原っぱだった所が多い訳ですが、原風景論で考えると、現在の形を相対化して考える必要があると思います。大正以降を原風景だと考えると、カラマツは非常に重要になると思います。その辺りの考え方を少し調整する必要があると思います。

ノイズという話は如何でしょうか？現行法との関係も出てくると思います。

浅野委員：

ノイズという言葉が出てくる事自体、軽井沢別荘民にとって観光客と観光客にサービスする商業は悪だと思っている感じがします。観光客と施設商業に対しての嫌悪感が強いと思っています。この会議内では、どう融合するのか、融合できる箇所を求めていかなければ、解決に繋がらないと思っています。

中村委員長：

レポートを見ると、ノイズ論については、地元の方も同じ様に思っているようです。どの様に考えたら良いものでしょうか？

横島委員：

別荘族が考えているノイズと地元が感じているかもしれないノイズは、若干温度差もあり、ずれもある様に思います。別荘住民が考えている「邪魔だという感覚」は、彼らのためには正しいものだと思います。しかし、その感覚に対して、地元住民はイコールの気持ちにはなっていないと思います。その溝が埋まらない限り融合は難しいのではないかと思います。

藤巻委員：

別荘の方にとって軽井沢は、収入を得たり、儲けたりする場所ではなく、消費する場所ですが、地元の方はここで生きる糧を見出す必要があります。その辺りのギャップはあると思います。

中村委員長：

軽井沢は多様な性質を持っていますので、全て旧軽井沢の様になる訳ではないと思います。場所によって政策を変える事によって、回答は出せるかもしれません。いずれにしても、あの形の商業が良いか悪いかという事については全国的な問題だと思っています。経済的な効果から見ても、地元にはあまりお金が落ちないという事も事実だと思っています。その辺りは意識して検討する必要があると思います。中軽井沢はそうなって欲しくないと思います。違うタイプの可能性を持っていると思います。

藤巻委員：

様々な方々から意見が挙がってきていますが、地元経済を無視した形でご提案されても、地元の方の共感は得られないと思います。

中村委員長：

最終的には地元が豊かにならなければ意味がないと思っています。非現実的な事を行って全滅しても仕方ないと思います。心豊かになおかつ皆が納得できるものが作れば、一番良いと思っています。

花里委員：

軽井沢は別荘地の連合体の様な気がします。旧軽では愛宕別荘地には「愛宕会」がありますが、各地区で多くの別荘地会があります。それぞれのアイデンティティを持っていますので、少しずつ意見が違っている事も事実だと思っています。

中村委員長：

意識もかなり違うものですか？

花里委員：

違うと思います。実際、お金持ちしか住んでいない別荘地もあれば、そうでない別荘地もあります。別荘地を一度に束ねる事は、難しいと思います。地区計画を積極的に導入する事は一つの手としてあるのではないかと思います。

中村委員長：

有難うございました。今までの意見の中でも、軽井沢は一纏めではいけないと思います。多様性がキーワードになるのではないかと思います。今後はその事を意識しながら話を進めていきたいと思います。随分と意見を頂きましたので、整理したいと思います。

事務局：(udc)

長時間に渡り有難うございました。それでは、第5回軽井沢未来構想会議を終了させていただきます。今回は12月24日になります。場所は駅前でございます「茜屋珈琲店」となります。

1点ご案内ですが、中村先生が「市民社会とコモンズの可能性」というタイトルで基調講演されるシンポジウムが11月23日に早稲田大学で開催されます。全体タイトルは「風景とローカルガバナンスを、今、誰なのか」です。社会哲学者も参加している極めて学際的なシンポジウムの様です。本日は資料を用意するのを忘れましたが、詳細は早稲田大学なり私共のホームページに掲載しております。ご参考までにご案内をさせていただきます。以上でございます。本日は有難うございました。

(以上)